



# A・ド・ヴ・オル・ザーク レクイエム

2014年10月13日[月・祝]

1:30pm 開場 2:00pm 開演

紀尾井ホール

創立 60 周年記念

東京合唱団演奏会

## ご挨拶

皆様、本日はお忙しい中、私ども東京合唱団の60周年記念演奏会にご来場いただき、まことにありがとうございます。

東京合唱団は1954年に学習院の卒業生が中心となって故前田幸市郎先生のもとに結成され、18年前からご子息前田幸康先生に引き継がれて、紆余曲折を経ながらも今年めでたく60周年を迎える事が出来ました。人生に喩えれば還暦、この長きに亘り前田父子のもとに活動を継続して参りましたが、これもひとえに会場において下さった多くの聴衆の皆様と、共演いただいた多くのプロ音楽家の皆様のお蔭だと、団員一同感謝しております。これを機に60年の歩みを別冊の小冊子にまとめましたのでご覧いただければ幸いです。

本日の演奏会ではドヴォルザークのレクイエムを演奏致します。この曲はなじみの薄い方もおいでになると思いますが、ドヴォルザークの最も充実した時期に作曲された知る人ぞ知る名曲です。今年も3月に読売日本交響楽団が、5月には関西フィルハーモニー管弦楽団がそれぞれ定期演奏会で取り上げておりますが、実はこの曲は今から約50年前の1965年に東京合唱団が学習院合唱団と一緒に本邦初演した曲であります。その意味で本日は60周年にふさわしい演奏会になりました。

東京合唱団は今後も精力的に活動を続けて参ります。来年3月には私どもが主催団体となって第4回目となる東日本大震災追悼チャリティーコンサートを、また10月には定期演奏会を予定しておりますので、引き続き絶大なご支援を賜りますようお願いいたします。また、一緒に歌ってみようと思われる方はどなたでも歓迎いたしますので是非お問い合わせ下さい。東京合唱団の活動状況や団員募集の詳細などにつきましては、ホームページ「東京合唱団」(<http://tokyo-gasshodan.com/>)をご覧いただければ幸いです。

最後になりましたが、本日の演奏会開催にあたり今年も「前田幸康サポータークラブ」には大変お世話になりました。ここに厚く御礼申し上げます。

皆様、どうかごゆっくり午後のひとときをお楽しみください。

東京合唱団団長 市井 善博

# A.ドヴォルザーク 「レクイエム」

## 第一部

— 休 憩 —

## 第二部

指 揮 ○ 前田 幸康

独 唱 ○ソプラノ 大隅 智佳子  
○ア ル ト 谷地畝 晶子  
○テノール 藤井 雄介  
○バリトン 山本 悠尋

オルガン ○ 草間 美也子

合 唱 ○ 東京合唱団

管 弦 楽 ○ 東京 KMG 管弦楽団

# 演奏者紹介



Yukiyasu MAEDA Director & Conductor

**前田 幸康**

(指揮)

国立音楽大学卒業。チェロを故・小沢弘、故・黒沼俊夫、小野崎純、マルティン・オースタータークの各氏に師事。指揮法を故・伊達良、故・前田幸市郎の両氏、和声法を藤原義久氏に師事。東京ゾリステン等の室内楽にも力を注ぐ。現・神奈川県フィルハーモニー交響楽団の前進であるロリエ管弦楽団を設立し、初代チェロ第一首席奏者を務める。1973年渡欧、'74年よりフライブルク市立交響楽団に在籍、同時に'85年よりプロアルテ・カンマー・オーケストラ・フライブルクの首席チェリスト。'85年フライブルク市よりカンマームジーカーの称号、'89年フライブルク市より国際文化交流功労賞メダルを授与された。'90年からは日本で活動。2009年日本国外務省国際文化功労賞を受賞。W.A.モーツァルト「レクイエム」、J.G.L.モーツァルト「ミサソレムニス」(日本初演)、グラウンのオラトリオ「イエスの死」(日本初演)、ブラームス「ドイツ・レクイエム」、J. S. バッハ「ミサ曲短調」「ヨハネ受難曲」フォーレ「レクイエム」、ヘンデル「メサイア」、メンデルスゾーン「パウロ」等を東京合唱団他で指揮する。上野学園大学教授。



Shikako OHSUMI Soprano

**大隅 智佳子**

(ソプラノ)

東京藝術大学声楽科首席卒業。同大学院修士・博士後期課程修了、学位(音楽)取得。安宅賞、松田トシ賞、アカンサス音楽賞受賞。首席の榮譽として皇居・桃華楽堂における宮内庁主催御前演奏会に出演。「カルメン」ミカエラ役にてオペラ・デビュー後、多くのオペラに主演。近年では「ルイーゼ」タイトルロール、「妖精」アーダ役、「マダム・サン＝ジェヌ」カテリーナ役の日本初演において新聞などで高い評価を得、二期会公演「エフゲニー・オネーギン」タチアナ役での大型新人としてのデビューが絶賛された。2011年同じく二期会公演「サロメ」にてタイトルロールを演じ、歌唱・演技共に高い評価を得ている。2012年日生劇場にてライマン作曲「メデア」日本初演(平成24年度文化庁芸術祭・芸術祭賞音楽部門「大賞」受賞作品)に主演。超難関と言われるメデア役に全力で臨んだ演技演奏は多くの人を魅了した。第九や宗教曲などのソリストとしても活動し、N響、都響、日フィル、新日フィルはじめプロ・オーケストラとの共演も重ねている。現在、尚美学園大学専任講師、足利オペラ・リリカ音楽監督、OHSUMI&PRODUCE主宰、二期会会員。



Shoko YACHIUNE Alto

**谷地 畝 晶子**

(アルト)

岩手大学教育学部芸術文化課程音楽コース卒業。東京藝術大学大学院音楽研究科博士後期課程独唱科修了。第16回日仏声楽コンクール第1位。2012年度三菱地所賞受賞。第57回芸大メサイア、第28回台東区第九、第349回芸大合唱定期ベートーヴェン「ミサ・ソレムニス」のアルトソロ、第54回芸大定期オペラ「ファルスタッフ」クイックリー夫人を務める。また、J.S. バッハ「クリスマスオラトリオ」「短調ミサ」「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト、ヴェルディ「レクイエム」、ベートーヴェン「第九」、シューベルトのミサ曲、メンデルスゾーン「パウロ」「エリヤ」等においてアルトソリストで出演している。声楽を佐々木まり子、佐々木正利、磯貝静江、朝倉蒼生、伊原直子、寺谷千枝子の各氏に師事。岩手大学教育学部非常勤講師。



Yusuke FUJII Tenor  
**藤井 雄介**  
(テノール)

大分県出身。14歳より声楽を始める。声楽を外川香奈子、オルガ・ワルラ＝コロ、奥田誠、枝川一也、鈴木寛一、寺谷千枝子、ブライアン・パーソンズの各氏に師事。これまでに、バッハ「ヨハネ受難曲」の福音史家、ヘンデル「メサイア」、ハイドン「天地創造」、モーツァルト「レクイエム」、シューマン「薔薇の巡礼」など、主に宗教的声楽作品のソリストを多数務める。日本フィルハーモニー交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、オーケストラ・アンサンブル・金沢等と共演。バッハ・コレギウム・ジャパン（鈴木雅明氏音楽監督）では声楽メンバーとして多数公演・録音に参加している。2009年には新国立劇場コンサート・オペラ、モンテヴェルディ「ポッペアの戴冠」にルカーノ役等で出演。広島大学教育学部音楽科卒業。東京藝術大学音楽学部声楽科を経て、同大学院音楽研究科修士課程および博士後期課程修了。東京藝術大学附属音楽高等学校非常勤講師。



Yukihiro YAMAMOTO Baritone  
**山本 悠尋**  
(バリトン)

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院独唱科修了。アカンサス音楽賞、同声会賞、大学院アカンサス音楽賞、武藤舞賞を受賞。これまでに声楽を藺田真木子、長町順史、寺谷千枝子の各氏に師事。「椿姫」ジェルモン役、モーツァルト「レクイエム」ハ短調ミサ、バッハ「ヨハネ受難曲」、第28回三越の第九、第32回台東区第九公演、荒川第九演奏会、第62回藝大メサイア等、数多くの演奏会でソリストを務める。2012年JT主催「期待の音大生によるアフタヌーンコンサート」、日本テレビ小鳩文化事業団主催第7回想いで詩コンサート、松本バッハ祝祭アンサンブル J.S.BACH:ハ短調ミサ曲全曲演奏会に出演。第59回全日本学生音楽コンクール高校の部東京大会第1位、全国大会出場。第9回藤沢オペラコンクール入選。



Miyako KUSAMA Organ  
**草間 美也子** (オルガン)

フェリス女学院短期大学音楽科卒業。同専攻科修了。オルガンを奥田耕天、ピアノを大島正泰、小林道夫、岸川基彦の各氏に師事。1970年万博記念オルガンコンクールで最高位入賞。その後ドイツのケルンに留学、ミハエル・シュナイダー氏に師事。帰国後、NHK交響楽団、新日フィル、読売日響などのオーケストラと共演多数。サヴァリッシュ、マズア、プロムシュテット、アルブレヒトなどの指揮者のもと、宗教曲を主に多くの演奏会に出演。海外でのコンサートも多く、ケルン、ベルリン、テュービンゲン、ライブツィヒなどで独奏・伴奏を行なう。現在、恵泉女学園オルガニスト、銀座教会音楽主任。

**永澤 麻衣子** (発声、練習指導) Maiko NAGASAWA

国立音楽大学声楽科卒業。声楽を瀬戸美子、清水明子、田島好一、吉澤祐江の各氏に師事。また、ドイツや日本においてCh.d.プロイン氏に師事し、リート解釈などの研鑽を積んでいる。ヴォイストレーナーとして多くのアマチュア合唱団の指導を行うとともに、ソリストとしても活動。

**平野 裕樹子** (練習ピアニスト) Yukiko HIRANO

日本大学芸術学部を総長賞を受賞して首席で卒業。読売新人演奏会出演。市川市文化会館新人オーディション優秀賞受賞。室内楽を鳩山寛氏、ピアノを神野明氏に師事。ソロ活動としてこれまでに6回のリサイタルを東京で開催。室内楽及び邦人作品の普及を目指す「フォッシオー(Fossio)」主催。2008年より東京合唱団練習ピアニスト。

**水野 彰子** (練集ピアニスト) Shoko MIZUNO

東京藝術大学器楽科ピアノ専攻を経て、現在同大学院室内楽科に在籍。第33回PTNAピアノコンペティションG級全国決勝大会入選。大学院で学ぶかわら、ソロ活動、声楽・オペラ伴奏、室内楽、合唱ピアニストとして活動。2013年より東京合唱団練習ピアニスト。

**東京 KMG 管弦楽団**

東京合唱団の創設者、故前田幸市郎氏により1982年にKMG合奏団として組織された。東京近郊の第一線クラスのソリストにより結成され、名人芸的なアンサンブルを醸し出す。特にバロック音楽では高い水準を維持している。

# アントニン・ドヴォルザーク

## 生い立ちと作品

### <生い立ち>

交響曲第9番「新世界より」でよく知られるドヴォルザークは、1841年、チェコのプラハ近郊の村で貧しい肉屋兼宿屋の長男として生まれました。あのブラームスの8歳年下でした。

才能は幼時から現れ、小学校の教師から特にヴァイオリンや音楽の指導を受け、教会の聖歌隊にも加わりました。彼の父親は家業の肉屋を継がせたかったのですが、若いドヴォルザークの才能を伸ばすようにとの周囲の助言と資金援助を得て、彼はプラハで音楽教育を受けられるようになったのです。当時ハプスブルグ帝国の支配はボヘミアにまでも及び、ドイツ語が使えないと成功することが困難だったのですが、この時ドイツ語も習得できたことが後年大いに役立ったのです。

ドヴォルザークが作曲家の道を歩むことになる大きな転機がありました。それはオーストリア文化教育省が提唱した国家奨学金制度です。チェコがハプスブルグ帝国の傘下であったために、この制度はチェコの芸術家にも適用されることになり、この時審査員の一人でかねてドヴォルザークの作品と才能に注目していたブラームスは、オーストリア当局に推薦状を送り、その上彼の作品を出版できるように手配して、彼を世に出す強い支援者となったのです。この奨学金は1年限りでしたが、ドヴォルザークは毎年応募して結局5年間支給を受けることになり、生活は安定、更に作曲に励むことができるようになりました。

ブラームスはドヴォルザークを評して、「次々に湧いて出る美しい旋律には羨望のあまり腹が立つほどです」と友人に手紙を書いたそうです。ブラームスとドヴォルザークは生涯変わらぬ友情で結ばれましたが、信仰については敬虔なカトリック信者のドヴォルザークはブラームスを評して、「あれほどの魂の持ち主なのに何も信仰していないとは!」と嘆いたこともあったようです。

ドヴォルザークの名声は海を越えてイギリスに聞こえ、“ボヘミアのブラームス”、と言われるまでになっていました。更にドイツ語圏以外には行きたがらなかったブラームスと違って乗り物大好きなドヴォルザークは、しばしばイギリスを訪れています。イギリスで「スタバト・マーテル」が大成功を収め、これに続く大作の作曲依頼を受けたのです。1891年、ドヴォルザーク50歳の年、8回目のイギリス訪問の時に、新しい大作「レクイエム」を初演して大好評を博しました。そしてこの年、ニューヨーク・ナショナル音楽院長として破格の高給で招かれ渡米します。そして93年にかの有名な交響曲第9番「新世界より」を作曲し大成功を収めたのです。その後95年にニューヨークから帰国し、故国で再び活躍した後、1904年に63歳で生涯を終えました。

### <作品、主として宗教曲>

ドヴォルザークはあらゆるジャンルの作品を残していますが、最もよく知られている名曲はアメリカ時代に作曲した交響曲第9番「新世界より」でしょう。アメリカで作曲したためインディアンのメロディーを採用したという説がありますが、ドヴォルザーク自身は、直接メロディーを使用した訳ではなく、インディアンの精神や自分の心の中の想いを表現した、という旨の言葉を残しています。この頃作られたチェロ協奏曲短調、小品ではユモレスクなど、哀愁を帯びた親しみやすいメロディーはまさにドヴォルザーク節とも言うべきもので、まことにブラームスが羨ましがれる訳です。

彼の宗教曲で最もよく演奏されるのは「スタバト・マーテル」でしょう。32歳で結婚して1男2女に恵まれたのですが、34～36歳にこの3人の愛児を相次いで亡くしたのです。これに触発されて作られたこの曲には悲しみと嘆きが満ち溢れています。この曲はヨーロッパの各地やロンドンでも大成功を収め、彼を国際的な作曲家として一挙に名声を高らしめることとなります。この時にイギリスのバーミンガム市から音楽祭用に次の大作の作曲を依頼され、これに答えて49歳の時に作曲したのが「レクイエム」でした。これは誰かの死に触発されたものではなく、彼の最も恵まれた年に、純粹に演奏会用として作曲されたもので、全曲を通して美しい旋律に満ちています。

### <鉄道マニアの作曲家>

世に鉄道マニアはたくさんいますが、作曲家の中ではまずドヴォルザーク、ブラームス、そしてオネゲルが挙げられます。ドヴォルザークの自宅のすぐそばにフランツ・ヨーゼフ駅があり、毎朝の散歩の時にこの駅を訪れては汽車を眺め楽しむのが日課だったそうです。そして機関車の番号や、あげくの果てには運転士の名前まで覚えてしまったとか。

ブラームスも若いころイギリスで始まった蒸気機関車に大変興味を持ち、ドイツに新線が開通すると必ず乗りに出かけ全線踏破した、との記録があります。

この頃はドイツ国内に次々に新しい路線が開通し始めていました。そのおかげで、現在もプラハーウィーン間に「アントニン・ドヴォルザーク号」、ハンブルクーウィーン間に「ヨハネス・ブラームス号」という名を冠した特急列車が走っています。ブラームスとドヴォルザークはよく一緒に食事をしたり別荘で生活したりしていましたが、二人の会話では汽車のことにもずいぶん花が咲いたことでしょう。

(バス 葛西英一)

## ドヴォルザークのレクイエムについて

レクイエムは“死者の為のミサ曲”で、多くの作曲家が作品を残しています。ドヴォルザークのこの作品は1890年(49歳)、彼の最高に恵まれた時期に作曲されました。前述のように誰かの死に触発されて書かれたものではなく、純粹に演奏会用として作曲された作品で、静的、哲学的レクイエム、との評もあります。基本的にラテン語の典礼文に従い、全13曲、二部構成としています。第一部は第1曲から第8曲まで(いわゆる入祭唱から続唱まで)で、暗く重々しい曲調ですが、第二部は第9曲から第13曲まで(いわゆる奉献唱から平和の賛歌まで)で、比較的明るく牧歌的な曲調となります。もう一つの特徴は、曲の冒頭に出てくる4つの音のメロディー(半音上昇-1音下降-半音上昇)がこの曲全体を通してのモチーフになっていることで、この、いわゆる「十字架の音型」が何度も現れます。この音型は、バッハの口短調ミサの第3曲(第2Kirie)や、ベートーヴェンのピアノソナタ「月光」第一楽章にも聴くことができます。

### 第一部

第1曲:レクイエム エテルナム(独唱、合唱)

「主よ、彼ら(死者)に永遠の安息をお与えください」と祈る。最後は「主よ、憐れみたまえ」の切々とした祈りの合唱で終わる。

第2曲:グラドゥアレ(ソプラノ、合唱)

ソプラノソロで「彼らに永遠の安息を、正しきものとされますように」と歌った後、あたかも修道僧を思わせる男声合唱の静かなアカペラで締めくくる。

第3曲:ディエス・イレ(合唱)

「怒りの日」の意味。激しいフォルテで奏せられる。人々は「最後の審判」を恐れる。

第4曲:トゥーバ・ミールム(独唱(A、T、B)、合唱)

「最後の審判」を前に、「妙なるラッパ」が響きわたる中、人々が集められる。審判者が一冊の書を持ってやってくる。そこにはすべての人々のあらゆる真実が書かれている。

第5曲:クイド・スム・ミゼル(独唱、合唱)

その時哀れな私は何と言えよのか、と人々は救いを求める。

第6曲:レコルダレ(独唱)

「慈悲深いイエスよ、どうか思い出してください、そして私を見過ごさないでください」と祈る。テナーソロに続く四重唱。

第7曲:コンフターティス(合唱)

「悪しき者とされた人は炎に焼かれる。どうか私を祝福された人々とともに呼んでください」、と主にすがる。曲間と最後のvoca me(私を呼べ)のアカペラが美しい。

第8曲:ラクリモサ(独唱、合唱)

「灰よりよみがえり裁かれる日は「涙の日」。ですからどうか彼らに情けをかけてください、そして永遠の安息をお与えください」、と祈る。最後は第一部の終わりにふさわしい感動的な「アーメン」で終わる。

### 第二部

第9曲:オッフエルトリウム(独唱、合唱)

前半は、死者の魂の救済を願う静かな祈り。後半は「かつてあなた様がアブラハムとその子孫に約束したとおりの」と、壮大なフーガで締めくくる。

第10曲:ホスティアス(独唱、合唱)

「いけにえ」の意味で、「主に生贄と賛美の祈りを捧げます」と歌う。4人の独唱を受け継ぎ、再び静かなアカペラ男声合唱となる。最後は第9曲のフーガを繰り返して終わる。

第11曲:サンクトゥス(独唱、合唱)

「聖なるかな」と主を称える。そして「主の御名によって来たるものには祝福を!」と歌う。

第12曲:ピエ・イエズ(独唱(バスを除く)、合唱(ソプラノを除く))

「慈悲深きイエスよ、彼らに永遠の安息を」。ほとんどアカペラに近い合唱で、静かで美しい。

第13曲:アニュス・デイ(独唱、合唱)

「神の子羊」の意味で、十字架にかけられたイエスのことをさす。「死者に永遠の安息と永遠の光を与えて下さい」との最後の祈り。第1曲の最初と同じモチーフで始まり、終曲にふさわしく壮大な祈りで終わる。

## ドヴォルザークのレクイエムとの出会い

市井 善博(バス)

今から6年半前の2008年春... 当時私はオランダのアムステルダムに赴任しており、音響では世界屈指のホールの一つであるコンセルトヘボウに、時間を見つけては入りびたる日々を送っていました。このホールを本拠地とするロイヤルコンセルトヘボウ管弦楽団が、世界の音楽評論家・記者の投票で、ベルリンフィルやウィーンフィルを差し置いて世界No1オケに選ばれ(英グラモフォン誌)、オランダ人は“チューリップやサッカーだけじゃないぞ!”と秘かに得意げだった頃です。この楽団の翌年のプログラムにドヴォルザークのレクイエムを見つけた時、まだ知らない曲ながら何か神秘的な予感を感じ早速チケットをオーダーしました。2回のチクルス、しかも1年近く前のオーダーだったにも拘らず、残念ながら良い席は取れませんでした。2009年2月、マリス・ヤンソンス指揮で当楽団とウィーン楽友協会合唱団の演奏を聞き終わった時、「こんな曲があったんですね!」と、当時在蘭日本大使館に勤務されていたクラシック通のOさんと顔を見合わせたものです。モーツァルト、ヴェルディ、フォーレのレクイエムのような“一目(聴)ぼれ”する強い印象とは違う、何か言いようのない感動が長く残ったのです。間もなくこの時のライブがCDになり早速買い求めて繰り返して聴くうちに、一層この曲の素晴らしさがわかるようになりました。折しもこの年は東京合唱団の創立者でもある前田幸市郎先生の没後20周年の年であり、その関係で東京の友人とやり取りしているうちに、この曲が1965年に東京合唱団で本邦初演されたことを知り、目から鱗の思いでした。今回60周年の記念すべき年に、ほぼ50年前に本邦初演されたこの曲を演奏できることを望外の幸せに感じております。



ドヴォルザーク「レクイエム」本邦初演 1965年12月19日 東京文化会館

## ドヴォルザークを巡る旅

平野 裕樹子

(東京合唱団 ピアニスト)

ドヴォルザークが暮らした街を肌で感じたくて、私はプラハの街へ旅立ちました。プラハには二度の世界大戦を経てもなお中世の建物が破壊されることなく当時のまま残っており、プラハ城から眺めるモルダウの雄大な流れと街並み、そして市街地から眺めるプラハ城の景色は月並みな言葉で表せないほど美しく、時と共にその姿を変える景色は見飽きることがありませんでした。

ドヴォルザークが生まれたネラホセヴェス村はプラハから北へ40キロ、急行列車で50分ほどの位置にあります。列車を降りたつとすぐそばにモルダウが流れ、線路を挟み質素な彼の生家そのまま保存されています。家の前には彼が幼少時にオルガンを弾いていたという聖オンドラ教会があり、生家隣の公園には彼の銅像が立っていました。その像と生家を見守るように高台に美しい装飾のネラホセヴェス城があります。村は彼が生きた時代からずっと時が止まっているかのように静かで、彼が目にしたのもきっとこんな風景に違いないと思われました。

ドヴォルザークの鉄道好きは有名ですが、5歳の時、村に鉄道が通り生家の目の前にできた駅に停まる汽車をいつも眺めていたとのこと。実際その場に立つと駅から家までの距離は驚くほど近く、ドヴォルザークがそのエネルギーに満ちた乗り物を見た時の興奮が伝わってきます。

プラハ市内には生誕120年を記念して開館したというドヴォルザーク博物館があり、彼が使用していたピアノ、ヴァイオリンやヤナーチェクに宛てた書簡(ドヴォルザークがいかにか鉄道好きであったかよくわかる!)などが展示されていました。

博物館から歩いて5分ほどのところには彼の終焉の地となったアパートがあり、そこには彼が暮らしたことを示す立派なレリーフが掲げられています。

彼の亡骸はヴィシェフラドにある墓地に埋葬されていますが、他の墓と隔てて屋根付きの回廊の中に収められており、これらのことから彼がいかにかチェコの国民から愛されているかが良くわかります。

小さな田舎町の肉屋の息子として生を受けながら、世界的な音楽家として後世に名を残すことになったドヴォルザーク。この旅で彼が確かにここで生き、暮らしていたことを肌で感じ、彼を育んだ自然、人々そして街の空気に触れたことで、大きな包容力のある彼の音楽への理解がより深まった気がします。



〔第1部〕

I . Requiem Aeternam <ソロと合唱>

Requiem aeternam dona eis, Domine:  
et lux perpetua luceat eis.  
Te decet hymnus, Deus, in Sion,  
et tibi reddetur votum in Jerusalem:  
exaudi orationem meam,  
ad te omnis caro veniet.  
Requiem aeternam dona eis, Domine:  
et lux perpetua luceat eis.

Kyrie, eleison.,  
Christe, eleison.  
Kyrie, eleison.

主よ、永遠の安息を死者にお与え下さい。  
そして永久(とわ)の光で彼らを照らして下さい。  
賛美をささげます。シオンにいます神よ。  
エルサレムではあなたに満願の捧げ物を捧げます。  
私の祈りを聞きいれて下さい。  
すべての人間はあなたのもとに至るでしょう。  
主よ、永遠の安息を死者にお与え下さい。  
そして永久(とわ)の光で彼らを照らして下さい。

主よ憐れみたまえ  
キリストよ憐れみたまえ  
主よ憐れみたまえ

II . Graduale <ソロと合唱>

Requiem aeternam dona eis, Domine:  
et lux perpetua luceat eis.  
In memoria aeterna erit justus:  
ab auditione mala non timebit.

主よ、永遠の安息を彼らに与え、  
絶えざる光で彼らを照らしてください。  
正しい人の思い出は朽ち果てることなく、  
悪いことが起きると怖れることはない。

III . Dies irae <合唱>

Dies irae, dies illa  
solvat saeculum in favilla:  
teste David cum Sibylla.

Quantus tremor est futurus,  
Quando iudex est venturus,  
cuncta stricte discussurus!

怒りの日、その日は。  
世のすべては灰に帰る、  
ダヴィドとシビラの証しの通りに。

その恐しさはいかなるものであろうか、  
審判者が来て  
厳しく尋問される。

IV . Tuba mirum <ソロと合唱>

Tuba, mirum spargens sonum  
per sepulcra regionum  
coget omnes ante thronum.

Mors stupebit et natura,  
cum resurget creatura,  
judicanti responsura.

Liber scriptus proferetur,  
in quo totum continetur,  
unde mundus iudicetur.

ラッパは不思議な音を  
地上のすべての墓の上に撒き散らし、  
すべての人を王の前に集めるだろう。

死と自然は驚くだろう。  
造られた人間がよみがえる、  
審判者に答えるために。

世を裁くために記された記録が、  
その中にすべてが書かれている、  
差し出される。

Judex ergo cum sedebit,  
quidquid latet, apparebit:  
nil inultum remanebit.

審判者が玉座に着かれると  
隠れたことがすべて現れ、  
裁かれないでおかれることはない。

Dies irae, dies illa  
solvat saeculum in favilla:  
teste David cum Sibylla.

怒りの日、その日は。  
世のすべては灰に帰る、  
ダヴィドとシビラの証しの通りに。

Quantus tremor est futurus,  
Quando judex est venturus,  
cuncta stricte discussurus!

その恐しさはいかなるものであろうか、  
審判者が来て  
厳しく尋問される。

Tuba, coget omnes ante thronum.

ラッパはすべての人を王の前に集めるだろう。

V . Quid sum miser <ソロと合唱>

Quid sum miser tunc dicturus?  
Quem patronum rogaturus,  
cum vix justus sit securus?

その時、あわれな私は何を言おうか。  
誰に弁護を頼めばよいのだろうか、  
正しい者でさえ心配なのに。

Rex tremendae majestatis,  
qui salvandos salvas gratis,

恐ろしいみいつの王よ、  
あなたは救われるべき者を無償でお救いになる。

Salva me, fons pietatis.

私を救って下さい、あなたは慈しみの泉ですから。

VI . Recordare <ソロ>

Recordare, Jesu pie,  
Quod sum causa tuae viae:  
Ne me perdas illa die.

思い起して下さい、いつくしみ深きイエスよ、  
(受難の) あなたの道は私のためでもあったことを。  
その日に私を滅ぼさないように。

Quaerens me, sedisti lassus:  
Redemisti crucem passus:  
Tantus labor non sit cassus.  
Juste judex ultionis,  
Donum fac remissionis  
Ante diem rationis.

私をたずね求め疲れてお座りになり、  
十字架を受けて私をあがなわれた。  
そのような苦しみが無駄にならないように。  
あなたこそ正しい罰の裁き主。  
ゆるしの恵みをお願いします、  
審判の日の前に。

Ingemisco, tamquam reus:  
Culpa rubet vultus meus:  
Supplicanti parce, Deus.

私は罪人のようにうめき、  
罪は私を恥入らせる。  
神よ、乞い願う者をお守り下さい。

Qui Mariam absolvisti,

あなたは(マグダラの)マリアを赦し、

Et latronem exaudisti,  
Mihi quoque spem dedisti.

(イエスとともに十字架につけられた)  
強盗の願いを聞き入れられた。  
それは私にも希望を与えました。

Preces meae non sunt dignae:  
Sed tu bonus fac benigne,  
Ne perenni cremer igne.

私の祈りはふさわしくありません、  
でもあなたは善い方で、寛大な方です。  
地獄の火で私を焼き尽さないで下さい。

Inter oves locum praesta,  
Et ab haedis me sequestra,  
Stauens in parte dextra.

羊の群に私を置き、  
山羊の群より私を分けて  
あなたの右に立たせて下さい。

**VII . Confutatis** <合唱>

Confutatis maledictis,  
Flammis acribus addictis:  
Voca me cum benedictis.

審判を受けた者は誹謗され、  
激しい火に身を委ねます。  
私を祝福された者の中に招き入れて下さい。

Oro supplex et acclinis,  
Cor contritum quasi cinis:  
Gere curam mei finis.

私はひざまづき、  
灰のように粉々になった心でひれ伏して  
乞い願います。私の終りの日をお守り下さい。

**VIII . Lacrymosa** <ソロと合唱>

Lacrymosa dies illa,  
Qua resurget ex favilla  
Judicandus homo reus.

涙の日、その日は。  
それは灰の中からよみがえる日、  
罪人が裁きを受ける日です。

Huic ergo parce, Deus:  
Pie Jesu Domine,  
Dona eis requiem.Amen.

神よ、罪人を守って下さい。  
いつくしみ深い主イエスよ、  
死者に安息を与えて下さい、アーメン。

**[第2部]**

**IX . Offertorium** <ソロと合唱>

Domine Jesu Christe, Rex gloriae,  
libera animas omnium fidelium defunctorum  
de poenis inferni et de profundo lacu:  
Libera eas de ore leonis,  
ne absorbeat eas tartarus,  
ne cadant in obscurum:  
Sed signifer sanctus Michael  
repraesentet eas in lucem sanctam:  
Quam olim Abrahae promisisti  
et semini ejus.

主イエス・キリスト、栄光の王よ、  
亡くなったすべての信仰者の魂を  
地獄の罰と深き淵からお救い下さい。  
かれらの魂を獅子の口から救い、  
よみの刑場に飲みこまれ  
闇に落ち込むのをお許しにならないように。  
天軍の旗手聖ミカエルが  
聖なる光でかれらの魂を導きます。  
かってアブラハムに約束されたことを  
その子孫にもお果たし下さい。

X . Hostias <ソロと合唱>

Domine Jesu Christe, Rex gloriae,  
Hostias et preces tibi,  
laudis offerimus:  
tu suscipe pro animabus illis,  
quarum hodie memoriam facimus:  
Libera eas, fac eas, Domine, de morte  
transire ad vitam.  
Quam olim Abrahae promisisti  
et semini ejus.

主イエス・キリスト、栄光の王よ、  
賛美のいけにえと祈りを  
お捧げします。  
かれらの魂を受け入れて下さい。  
我々は今日その人々を記念しています。  
主よ、彼らの魂を救い、死より生命に  
お移し下さい。  
かってアブラハムに約束されたことを  
その子孫にも果たして下さい。

XI . Sanctus <ソロと合唱>

Sanctus, Sanctus, Sanctus  
Dominus, Deus Sabaoth.  
Pleni sunt coeli et terra gloria tua.  
Hosanna in excelsis.  
  
Benedictus, qui venit in nomine Domini.  
Hosanna in excelsis.

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、  
万軍の神なる主。  
主の栄光は天地に満つ。  
天のいと高きところにホザンナ。  
  
ほむべきかな、主の名によりて来たるもの。  
天のいと高きところにホザンナ。

XII . Pie Jesu <ソロと合唱>

Pie Jesu Domine,  
Dona eis requiem sempiternam.

いつくしみ深い主イエスよ、  
かれらにとわのやすらぎを与えたまえ。

XIII . Agnus Dei <ソロと合唱>

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:  
dona eis requiem sempiternam.  
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:  
dona eis requiem sempiternam.  
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:  
dona eis requiem sempiternam.

神の小羊、世の罪を除きたもう主よ、  
かれらにとわのやすらぎを与えたまえ。  
神の小羊、世の罪を除きたもう主よ、  
かれらにとわのやすらぎを与えたまえ。  
神の小羊、世の罪を除きたもう主よ、  
かれらにとわのやすらぎを与えたまえ。

Lux aeterna luceat eis, Domine:  
Cum Sanctis tuis in aeternum:  
quia pius es.  
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:  
dona eis requiem.

そして永久(とわ)の光でかれらを照らして  
下さい、主よ。あなたの聖人たちといつまでも。  
なぜならあなたはいつくしみ深い方です。  
神の小羊、世の罪を除きたもう主よ、  
かれらにやすらぎを与えたまえ。

Requiem aeternam dona eis, Domine:  
et lux perpetua luceat eis.

主よ、永遠の安息を死者にお与え下さい。  
そして永久(とわ)の光でかれらを照らして下さい。

## ◆東京合唱団演奏会出演者

### ソプラノ

井澤百合子 本多 由利  
市井さゆり 山口 恵子  
大沢 結衣 吉田小智子  
岡本 智子 吉武 妙子  
加藤 方子  
橘田 浩子  
小池 直子  
小林真利子  
近藤 鈴夏  
坂井田廣子  
滋野奈津美  
篠塚 智子  
仙波 京子  
楚山 静子  
竹内 真名  
竹田 貴子  
田中 温子  
棚橋 佳子  
遠山木乃美  
中川 雅子  
中川 悠子  
中野 克代  
早川由希子

### アルト

荒井 華子  
池松 菜生  
板倉由美子  
伊藤 静子  
稲垣 知子  
今溝 恵子  
岩端由美子  
小笠原みどり  
恩藏 恵子  
加倉井今日子  
梶原 典子  
鴨澤 小織  
栗原 汐里  
佐々木紀代子  
佐藤瑛利子  
佐藤 京子  
佐藤 容子  
白井 悦子  
瀧来 佐穂  
津賀 恵理  
永澤麻衣子  
中島 玲子  
花形 由美

### テノール

上野 紘機  
太田 紘子  
上島 敏  
岸 柁文  
木村 悦郎  
栗原 康明  
小谷 一夫  
笹村寛太郎  
塩谷 隆英  
鈴木 昂  
富松 太基  
長尾 正樹  
永野 康雄  
成田 本行  
沼野 博  
細川 仁  
堀越 尊雅  
吉野 健太

### バス

青木 修三  
赤木 克行  
荒川 昌夫  
市井 善博  
小川 尚夫  
葛西 英一  
近藤 安雄  
近 正明  
久保田 秀  
竹内 智之  
田澤 雅昭  
任田 弘道  
沼田 盛也  
野辺 博康  
広畑 俊成  
宮川 勇蔵  
森 正明  
山岡 成行  
山口 和  
山本 洋一

## ◆東京 KMG 管弦楽団

### 第1 ヴァイオリン

◎野口千代光  
荻野 照子  
徳井 えま  
松岡 典子  
海保あけみ  
宮川 芳江

### 第2 ヴァイオリン

吉原 葉子  
佐藤 明美  
西本 徳子  
河村 知里  
渡邊田鶴野

### ヴィオラ

佐々木真史  
原口 朝子  
磯 晃男  
千年美菜子  
真中 望美  
吉田 典代  
前田 利祐

### チェロ

藤村 俊介  
寺井 創  
豊田 省吾  
加藤 陽子  
井崎 瑛恵  
加藤 歩

### コントラバス

赤池 光治  
地代所 悠

### フルート

白尾 隆  
小澤 恭子

### ピッコロ

星野すみれ

### オーボエ

小畑 善昭  
荒木 奏美

### ファゴット

前田 信吉  
井村 裕美

### クラリネット

兼氏 規雄  
伊藤 睦

### ホルン

南 浩之  
伊勢 久視  
岡村 陽  
田邊 愛子

### トランペット

神代 修  
亘 圭奈子  
石田 諭  
民谷 和大

### トロンボーン

小坂 達也  
住川 圭祐  
菅原 薫

### イングリッシュホルン

大西 幸生

### コントラファゴット

大塚 利崇

### バスクラリネット

野沢 和弘

### チューバ

山本 和邦

### ティンパニー

石川 達也

### オルガン

草間美也子

### ハープ

井上美江子

◎はコンサートマスター

## 次回演奏会

### 第4回 東日本大震災追悼チャリティコンサート 「鎮魂と復興への祈り」

2015年3月8日（日）午後2時30分開演

上野学園石橋メモリアルホール

曲 目： シューベルト「ミサ曲第2番ト長調」  
モーツァルト「レクイエム」

指 揮： 前田幸康

合 唱： 東日本大震災メモリアル合唱団

管弦楽： 東日本大震災メモリアル管弦楽団

### 2015年定期演奏会

2015年10月12日（月・祝）午後2時開演

紀尾井ホール

曲 目： 番場俊之作曲 三好達治「春の岬より」  
（東京合唱団60周年記念委嘱作品）

プッチーニ作曲

「Messa di Gloria」（グロリア・ミサ）

ブラームス作曲 「Nänie」（哀歌）

指 揮： 前田幸康

管弦楽： 東京KMG管弦楽団

上記演奏会の参加者を募集しております

連絡先：東京合唱団事務局

Tel 090-1701-3438 Fax 03-3395-2546

email [sembakyo@qq8.so-net.ne.jp](mailto:sembakyo@qq8.so-net.ne.jp) まで

ホームページ <http://tokyo-gasshodan.com/>

